

## 令和元年度 授業改善推進プラン (小学校)

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	12月時点での評価や修正点
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的、基本的な読む力のベースになる読書指導、確かな読み取りの力のもとになる読み取りの観点の指導を充実させる。</li> <li>漢字の読み書きが定着しない児童が多いため、漢字指導を丁寧に行い、定着を図る。</li> <li>自分なりの思いや考えを言葉で伝える力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書に親しみ読む力が育つように、6月と10月の年間2回を読書週間とし、お気に入りの本の紹介を全校児童が一人2枚以上書き、教師や図書委員による読み聞かせを2回以上行う。</li> <li>読み取りの観点を示し、繰り返し指導をしていくことによって、80%の児童が自らが読み進めていくことができるようにする。</li> <li>毎回の漢字指導や宿題、定期的な漢字テストなどで定着を図り、80%の達成率となることを目指す。</li> <li>各単元で随時、読み深め合う場を設けて、80%以上の児童が考えを発表できることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書に親しみ取り組みが増えたことにより、読書が好きな児童が増え、生活の一部になっている児童が多くなった。</li> <li>自ら読み進めていく児童はまだ80%には到達していないので、今後も指導を続けていく。</li> <li>毎回の漢字指導や宿題、漢字テストなどで繰り返し学習することで、漢字を繰り返し練習する習慣をつけることができた。そのため、まよめの学習で80%の達成率をあげることができたので、引き続き継続して取り組んでいく。</li> <li>各単元で、自分の考えをノートやワークシートに書く活動を行ってきた。そのため、80%の児童が自分の考えをもてるようになった。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図帳や白地図の活用、自分の住む地域の図を自分で描いて名称を書き入れたりする活動を繰り返しさせることで、基本的な知識の定着を図る。</li> <li>資料から、情報を正確に読み取ったり、複数の資料を結び付けて考えたりする力が不十分なため、資料を活用する場面を意識的に多く取り入れる。また、資料の読み方を指導したり、資料から自分なりの考えや疑問をもたせたりする活動を設定していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な地図記号の問題や、調布市とその周りの市区の名称と位置などを覚えることについて、ワークシートや確認テストで知識の定着を図り、80%の達成率を目指す。</li> <li>都道府県の位置や名称の知識を定着させるために、地図帳を活用したり、白地図に書き写したりする活動を重点的かつ継続的に行う。</li> <li>資料の読み取りの場面において、グループで80%、全体の場では70%の児童が考えを発表できることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識・理解の定着は、80%を達成した。着実な定着を図るため、今後も継続して指導する。</li> <li>教科書の文中に都道府県が出てきた際、地図帳を開かせて印をつけさせたり、白地図に書き写す活動を取り入れたりして都道府県を意識させるようにした。</li> <li>資料から読み取ったことの発表については、グループ、全体ともに50～60%程度だった。子供達が自分の考えを書けるように机間巡視での助言を大事にして、まずはノートに自分なりの意見を書けるようにしていく。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別指導・TT指導により、個に応じた学習を展開する。</li> <li>基礎・基本の定着を図るために、四則計算の練習問題に継続的に取り組む。また、家庭学習でも日常的に取り組ませる。</li> <li>学習した内容をノートで確認できるよう、板書計画やノート計画をしっかりと行う。</li> <li>図や式、言葉を用いながら自分の考えを明確に表現できるよう、ノート指導に重点的に取り組む。</li> <li>児童相互で考えを深めていけるよう、課題に対する検討・交流の時間を確保し、活発な相互啓発を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別指導により、80%以上の児童が単元の学習内容を理解し、身に付けられるようにする。</li> <li>80%以上の児童が、その時間の課題に対する自分の考えをノートに表現できるようにするとともに、表現できない児童に対しては個別に対応して考えるヒントを与え、友達のを参考にノートに書けるようにする。</li> <li>発言する児童が偏らないよう配慮しながら幅広い意見から検討させる。児童はその時間内に一度は挙手、発言、質問等で自分の考えを表現することを目指す。</li> <li>児童のノートをチェックして理解度や考え方を評価する。80%以上の児童が、その時間の課題や課題に対する考え及びまとめをノートに書けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>70%程度の児童が、単元で習得すべき計算力を身につけられた。しかし時間が経過すると忘却する傾向も見られる。九九の苦手な箇所にとったワークや宿題等で継続的・日常的に取り組んでいく必要がある。</li> <li>自分の考えをノートに表すことができるよう、個別に対応したり、友達のを参考にするなどのヒントを与えるようにした。結果、70%の児童が考えを書くことができた。</li> <li>自分の考えをもっている児童は偏りがちなため、ペア・グループトークの時間を増やすなど、発言する場の設定をより工夫していく。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験や観察を正しく行い、傾向や特徴が見えるように結果をまとめ、考えたことをじっくり吟味させる。たとえば、実験後に表やグラフに表して傾向を読み取って考えさせたり、実験結果を共有したりする場を設定する。気付いたことを科学的用語ではどう表現するのか例文を挙げて、論理的な表現方法に慣れさせていく。</li> <li>ビデオや写真などの資料を活用し、ノートにまとめをさせ、基礎的事項の理解と定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業後に学習感想や振り返りを書かせ、各自の実験結果の読み取り状況や関心・意欲を把握し、個別指導に役立てる。科学的用語に慣れさせ、論理的にまとめや考えを書く力がつくようにする。80%以上の児童が自分なりの考えをノートに書けるようにする。</li> <li>実験や観察の結果を表やグラフ等にまとめる方法を経験させることで、考察の仕方を身に付けさせる。個の気付きをノートに書いた後、班や学級で話し合い、共有させることにより言語活動の充実を図る。</li> <li>児童のノートをチェックして理解度や考え方を評価する。80%以上の児童が、その時間の課題や課題に対する考え及びまとめをノートに書けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験結果を読み取ってノートに考えたことや分かったことをまとめることと学習感想や振り返りを年間通して積み重ねた。8割以上の児童が実験結果をもとに大切なことをまとめることに慣れてきた。</li> <li>実験結果をグラフや表に表し、気付いたことをペアで話し合ってから発表させることで、気付きの言語化と科学的用語の使い方に慣れてきた。学習内容の定着にも役立った。</li> <li>単元の最後に時間を確保し、「重要ポイントのまとめ」をノートに自分の力でまとめさせることで、理解の定着が図られた。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現の基礎的な能力を高めるために、ペア学習やグループ学習を取り入れたり、個別での支援を行ったりする。</li> <li>共通事項(音楽を形づくっている要素)を理解した上で表現の工夫をする力を育てるために、音楽を特徴付けている要素、音楽の仕組みや音楽にかかわる用語をおさえながら指導をし、友達同士で思いや意図を交流しながら表現できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な表現能力を高めるため、個人の技能を確認した上で個別指導をする。技能面においては、各学年とも到達目標を80%とする。必要に応じて休み時間等を使って指導したり、友達同士の教え合いを促したりする。また、意欲や達成感を味わえるようにするために学習カードを有効的に使う。</li> <li>共通事項については、視覚的教具を使ってわかりやすく指導したり掲示したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技能面においては高学年が80%以上、到達目標を達成できているが、中学年は70%ほどである。</li> <li>一人ひとりが思いをもって表現の工夫をし、ペアやグループで共有する学習を多く取り入れたが、なかなか表現につなげることができなかった。</li> <li>意欲や達成感を味わわせるための学習カードを有効的に使用し、表現能力を高める。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対する自分なりの考えをもつために、アートカードなどの鑑賞教材やグループ学習、話し合い活動、発想を広げるための手立て(遊びや読み聞かせ等)を発達段階に合わせて効果的に取り入れる。</li> <li>材料や用具の特徴を生かし、表現する力(技能)をつけるため、系統的に学習を積み上げる。造形遊び等を通して、材料・用具、色や形のイメージに関する体験を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年80%以上の児童が学習のねらいを達成できるように、導入や発問など児童の実態に合った視点のもと工夫をする。</li> <li>ペアトークなどを使い、感じたことや考えたことを共有する場をもち、70%の児童が自分の考えを表現することができ、80%の児童が自分なりの考えをもてるようにする。全員が感じ方の違いを理解する。</li> <li>児童自身が学んだことを実感するために、学習の終わりに振り返りカードを書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おおむね全員が作品を仕上げることができおり、8割以上の児童が学習のめあてを達成できている。</li> <li>豊かに想像して表すことについてはまだ弱く、学習内容の提示をわかりやすくするとともに、用具・材料を使った感じなど、実感的な理解を深めていくように指導していく。</li> <li>振り返りを通して、学習のねらいを意識して活動に取り組めるようにしていく。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育科においては、行事を通して、運動の魅力を感じられるよう促す。</li> <li>持久力向上のため、各学年の実態に応じて、マラソン週間を設定して年間を通して継続的に運動する機会を設ける。その際、低・中・高学年ごとの学習カードを用い、児童が意欲をもって運動できるようにする。マラソン週間後にはマラソン大会を行う。取り組みが終了した際は、努力賞や賞状を出し、児童の頑張りを称賛して意欲向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マラソン大会では各学年に応じた設定時間内で完走できる児童を100パーセントにするため、2週間あるマラソン週間で5分間歩くことなく走り続けるよう、教員全体で児童に声をかけ、支援・指導する。</li> <li>マラソンカードを用意し、支援をしながら技能の向上を図る。記録を大切にしつつも、友達と協力する、ともに成長するという趣意説明も大事にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マラソン大会では、参加児童全員が完走することができた。</li> <li>マラソン週間は無理のない時間設定のおかげでマイペースに走る児童が多く、前向きな姿勢で取り組んでいた。</li> <li>大なわ週間においても無理のない目標設定をし、楽しみながら運動に親しみ機会を設けることができた。</li> </ul>
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> <li>布を用いた製作活動では、基礎的・基本的なことを習得し、生活に生かすことができる技能の定着を図る。</li> <li>日常食べている食品に含まれる栄養素の種類や働きを調べたり発表したりして、知識の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>布作品の製作では、毎時間習得すべき技能を80%の児童が確実に身に付けられるように指導する。また、やりきれなかった児童には、授業以外の時間に取り組ませるように配慮する。</li> <li>調理実習では、バランスよく食品を組み合わせるよう献立を考え、各種栄養素の大切さを80%の児童が理解できるよう目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手縫い、ミシン縫いの基礎となる技能は、6年生では90%、5年生で80%の児童が身に付けることができた。全児童が、作品の製作を完成させることができた。</li> <li>栄養のバランスを考えて献立を立てることの大切さは90%の児童が理解できた。各種栄養素への理解は80%に満たないので、引き続き丁寧に指導する必要がある。</li> </ul>
生活科	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの人や実物に触れる機会を多く設定し、自然や人とかかわる体験学習を進めていくようにする。</li> <li>多様な気付きを自らすることが不十分なため、対象とかかわる時間を十分に取る。さらに、活動だけにならないように気付いたことを互いに伝え合う場を必ず設け、対象に対しての気付きを深めていけるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学期2回以上、地域の教材や人材を生かした学習を行う。</li> <li>気付きの視点を児童に示し、児童がより質の高い気付きができるよう、教師が児童のカードにコメントを入れ、気付きの表現の仕方を教えたり、認めたりしていく。</li> <li>実物に触れた後にペアや全体で気付いたことを伝え合う言語活動の時間を設け、気付きの種類を増やしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の観察で気付きの視点を示すことで、児童がそれらを意識しながら書くことができるようになってきた。質の高い気付きにつなげていく部分が弱いので、授業の中でペアや全体で気付いたことを伝え合う言語活動の時間を設けて継続していく。</li> <li>「お正月遊び」など、地域の人に教えてもらい、家庭では体験できない年中行事を体験することができ、指導計画の位置付けは効果的であった。</li> <li>実物としっかりかかわる時間を確保することで、児童が様々な気付きを発言したり書いたりできるようになってきた。気付きの種類を増やしていけるように継続して指導していく。</li> </ul>
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会を行い、教員自身の英語活動の授業力を高める。</li> <li>語彙を増やし英語に慣れるために教室掲示や校舎内の掲示物などの環境を整備する。</li> <li>英語に対する苦手意識のある児童も楽しめるように絵カードやゲームなどを工夫し、慣れていく中でコミュニケーション活動の楽しさを感じられるようにする。</li> <li>リフレクションカードを活用し、自らの成長に気付き、学習意欲が高まるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の英語活動の授業力向上のために研修会を行う。(金曜夕会始まりは英語で司会)</li> <li>毎回の授業後またはアクティビティの区切りごとにリフレクションカードを記入し、担任やALTが児童の成長を認め、励ますのに役立てる。</li> <li>段階のステップを利用して、英語の色や形など、児童の興味の広がるような掲示を工夫する。また、掲示板に英語活動コーナーを作り、学期ごとに内容を替えて、英語に親しめる環境づくりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の掲示や教室環境を整えたことで、英語が児童の目に触れる機会が多くなり、外国語活動に慣れ親しめる児童が増えた。</li> <li>リフレクションカードを使用したり、活動途中に小リフレクションを取り入れたことにより、よりよい発表を行おうとしたり、児童同士で評価を合せて相手のよさに気づくことができるようになった。</li> <li>教員の研修を続けたことで、クラスルームイングリッシュを躊躇なく言うようになってきたが、授業中にパッと出すことが難しく、引き続き研修や練習等の取り組みが必要と感じている。</li> </ul>